

④ NARAと奈良がキーワード

おはようございます。第46回近畿小学校長会協議会研究大会・奈良大会の開催にあたって一言ご挨拶申し上げます。

本日は公務ご多忙の中、奈良県副知事南出七男様、奈良市長大川靖則様、奈良県教育長西川彰様、全連小会長薩日内真一様、奈良県及び各市町村教育委員会や関係機関・団体の皆様にご臨席を賜りましたこと、誠にありがたく心からお礼申し上げます。



近畿2府4県の校長先生方には、梅雨の合間の陽の光に輝く緑っぱいのここ奈良県文化会館国際ホールによろこそいらっしゃいました。心から歓迎申し上げます。

さて、皆様をお迎えしました奈良県では、21世紀を志向した様々な取り組みが始動しています。その1つに、世界への情報発信基地としての役割を果たす関西文化学術研究都市「けいはんな」の建設があります。ここには、国立奈良先端科学技術大学院大学が開学、国際的な知的創造の場として次代を担う人材を育てているほか、新しい時代を創造し、国際社会に貢献することを目指した数多くの施設が生き生きと動き始め、活力が満ちあふれています。そして、高山サイエスタウンにある「科学者にちなんだ遊歩道」などは、子どもたちが気軽に科学と親しみ、科学する場となっています。

一方、県内47の市町村には、能楽や春日舞楽のように著名なもの

以外に、人々に語り継がれ、引き継がれてきた素朴な伝統文化や民俗芸能が、今なお息づき、日本の心を継承していこうとする子どもたちに引き継がれていっています。開催要項の表紙を飾る「火と水の祭典」奈良お水取りの行事もその1つであろうかと思えます。

私たちは、こうした視点に立ち、「新しい時代を創造し、国際社会に貢献する日本人の育成を目指す小学校教育の推進」という全連小の新しい研究主題に、「文化と伝統に学ぶとともに、世界的な視野に立って、創造的に生きる子どもの育成」というサブテーマを加えて、この大会を企画いたしました。このねらいとするところは、今年4月から月2回実施されている学校週5日制の目指している「社会の変化に対応して現在及び将来を主体的に生きていくことができる資質や能力を育成する」こととも軌を一にするものであります。

このような中であって、子どもたちを「学ぶプロ」として育てる取り組みの深化充実を図り、心豊かなたくましい子どもに育てていくとともに、私たち自身が「教えるプロ・育てるプロ」としての力量を高め、創造的で活力ある学校づくりを進めていくことが求められていると考えます。

この大会では、互いに実践を交流し、話し合い、高め合って、自らが「新しい時代を創造し、国際社会に貢献する日本人」として一層成長したいものです。そして、この大会の成果を、それぞれの学校に持ちかえり、地域や学校の実態に即したものを、子どもたちのよりよい成長のためのものとして練り上げ、実践に移していきましょう。

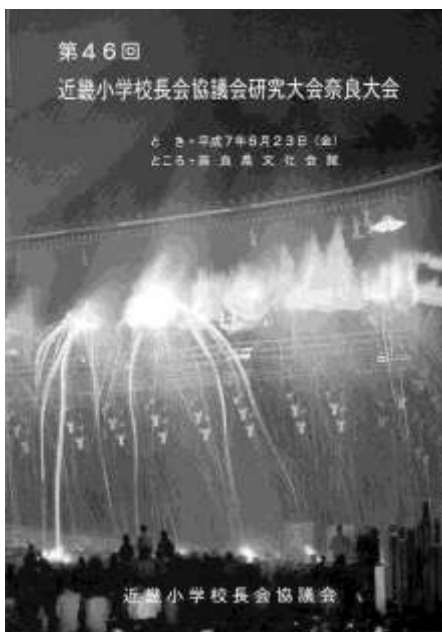
終わりにになりましたが、この大会の開催にあたり深いご理解とご指導ご協力を賜りました奈良県、奈良市、各市町村教育委員会をはじめ関係機関・団体に、また、これまで近畿小学校長会協議会、奈良県小学校長会を育ててくださった先輩の皆様にも、心からお礼申し上げます、ご

あいさついたします。

こうして、第46回近畿小学校長会協議会研究大会・奈良大会が始まりました。それは、平成7年6月23日・梅雨の晴れ間の1日のことでした。

近畿の各府県の中では小さいほうのグループに属する奈良県です。「この大会を成功させるという意気込みは他の府県には負けない」とは言っても、会員数252人の奈良県では、会場の確保、研究誌の作成、大会の運営にも様々な困難があります。それは経費の捻出についても同じことでした。そんな中で、単なるお祭騒ぎでなく、学校の管理・運営、自らをも含む教職員の研修等々の課題を解決し、明日の小学校教育を創り出す大会にしたいと思いました。それが、私たちの務めなのです。そして、準備については新しい組織を立ち上げるのではなく、通常組織を生かし、大会の構成や企画については管理部に、参加会員や当日の運営については給与部に、分科会での提案や研究協議については研修部に、大会の成果を記録し公にする大会記録誌の編集・作成・配布には広報部に力を尽くしてもらいました。

私には、「文化と伝統に学ぶとともに、世界的な視野に



立って、創造的に生きる子どもの育成」をサブテーマに掲げた大会として、記念講演や奈良県文化の紹介をどうするかという課題が与えられました。

そんなある日、国営飛鳥歴史公園開園 20 周年記念・飛鳥万葉フェア 1994 が「人と歴史と自然とのふれあい」をテーマに明日香村で開かれるという新聞記事を見つけました。ここでは、奈良県に伝わる伝統芸能が数多く披露されるようでした。

私は、ビデオカメラを手に早朝から出かけました。明日香村に伝わる二絃琴の調べに心を打たれました。薄紫と淡いピンクの衣装がとてもきれいでした。稲の生育を願い豊かな雨を祈る「南無天（なもで）踊り」は、奈良県内のあちこちに伝わっているようですが、ここ明日香では、村の有志が集い、この伝統の踊りを復活し、これからも伝えていこうとしているとのことでした。決して派手なものではない、けれども、村のおじいさん、おばあさん、それに若い人たちも参加して伝統の芸能を引き継いでいこうとする明日香の人たちの営みに、これこそ私たちのテーマに即したものだと思いました。

8mmビデオで撮ってきた映像を役員会で上映し、会場に予定していた奈良県文化会館国際ホールの規模などから考えて、「南無天おどりにしてはどうだろう」と提案し賛同を得ました。明日香村に出かけ、代表の方をお願いしたところ快諾をいただき、村教育長の森井実先生からも、「協力させてもらうよ」とのお言葉を頂戴しました。

記念講演のほうは、新しい奈良を象徴するものにしたいと思いました。そして、学研都市「けいはんな」の中核的な施設の1つであり、バイオサイエンス、材料工学などの先端科学技術のトップリーダーとしての評価を得ている国立奈良先端科学技術大学院大学を訪ねたのは、平成6年春のことでした。

「生駒市立生駒小学校長の竹中です。どうぞよろしくお願いします」と自己紹介した私には、

「学長の櫻井洸です。同じ市内の学校の長としてよろしく」というお返事が返ってきました。

そして、「同じ市内の学校」と言ってくださった先生に、この大会についての私の考え方を説明し、奈良大会での記念講演をお願いしたところ、快諾をいただくことができました。そして、「今、大学では、曼陀羅システムと名付けた学内ネットワークの構築を進めています」と熱っぽく語られる先生には、若さが満ちあふれているように思いました。それは、私には「ネットワーク」という言葉自体が、まだ目新しいときのことでした。

大会の当日には、「21世紀の技術革新を目指して」というお話をお聞かせいただきました。それは、永年にわたる先生の実践、新しい形態の大学で若い研究者を養成するというお取り組みを通しての興味深いお話でした。

この中での「日本人は模倣がうまいと言われていますが、そうではありません。明治の初めのワクチンの開発、ビタミンに関する研究から最近の素粒子物理での先駆的な研究、古くは源氏物語というすばらしい文学の創造など、決して諸外国にひけをとるものではないのです。日本人としての自信をもって次代を担う子どもたちを育てて欲しいと思います」というお話が、今も強く印象に残っています。万雷の拍手でお礼を申し上げたご講演、こうしたお話が近畿各府県の小学校に広まり、各クラスでの実践につながって欲しいと思いました。

先生が、「創造」ということに言及されたときには、多くの生徒に慕われ、共に創造的な活動を展開している高校教員のK君や身近な素材を生かした新しい芸術作品で多くの人々を魅了しているT君、「あ

の中には私が開発したものが搭載されているんだと思うとすごくうれしくなります」というH君、「保育の中で、1人1人のよさをいっばいに伸ばしてあげたいと思います。毎日が工夫です」と言うTさん、「子育てが一段落したので新しい事業に取り組み始めました。『これからの時代はこれだ！』そんな気がしたんです」と話していたYさんが脳裏に浮かびました。

そして、これは大事だという基礎的・基本的なことはしっかりと身につけさせるとともに、子どもたちの自由な発想をのびのびと育てることのできる環境を準備し、1人1人が自分の夢を大きくふくらませ、創造する力を身につけていく、そんな学習をさせたいものだと思います。